

ようこそラウテンシュレーガー女史

発表日：2014年1月10日（金）

～銀行監督の手腕に期待も、ドイツ政府とのパイプ役を失う～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理

03-5221-4527

- ◇ ドイツの労働次官に転身したアスムセンECB理事の後任に、ドイツ連銀副総裁のラウテンシュレーガー氏が就任する見通しとなった。同氏は銀行監督の専門家で、金融政策に関する姿勢は未知数だ。11月に始まる域内の単一銀行監督体制の下で、重要な役割を担うことが予想される。
- ◇ 理事交代による金融政策への直接的な影響は限定的とみられるが、これまでドイツ政府とのパイプ役を果たしてきたアスムセン前理事の穴を埋めるのは容易でない。アスムセン前理事は債務危機対応でECBとドイツ政府との意見が対立する際に、ドイツ政府や国民を説得する役割を担ってきた。今後はドラギ総裁自らがドイツ国民の説得に奔走し、批判の矢面に立つ場面が増える可能性がある。

ドイツ新政権の労働次官に就くため昨年末に任期途中で退任したアスムセン前ECB理事の後任に、ドイツ連銀副総裁のラウテンシュレーガー氏が就任することが固まった。ドイツ政府による正式指名を受け、EU理事会（閣僚理事会）は8日、同氏をECBの理事に任命する勧告を採択。これを受けECBは9日、同氏が金融や銀行分野での高い実績と経験を有し、理事就任に異議がないとの声明を発表した。同氏は13日に欧州議会での公聴会に臨む。欧州議会の意見を聴取したうえで、欧州理事会（欧州首脳会議）でユーロ圏各国の投票に基づき最終決定が下される。2011年5月末にトゥンベル＝グゲレル理事が退任して以降、不在となっていた女性理事が久しぶりに復活する。

ラウテンシュレーガー氏は法律家出身で、2011年6月にドイツ連銀の副総裁に就任する以前は、ドイツで金融監督を統括する連邦金融監督庁（BaFin）とその前身である銀行監督当局で要職を務めてきた。銀行監督の専門家で、11月に予定する域内単一監督制度（SSM）の開始に伴い、ECB内に設けられる単一監督委員会のナンバー2のポストに就くとみられている。ECBの理事は金融政策に関わる決定で投票権を持つが、同氏の金融政策に関するスタンスはほとんど知られていない。ドイツ連銀の副総裁としての職務も一貫して銀行監督を所管し、連銀ホームページに公開されている副総裁就任後のスピーチやインタビューも銀行監督およびその周辺分野に関するものばかりだ。連銀出身ということもあり、理事会内の最タカ派で、OMT批判の急先鋒であるバイトマン総裁の意見に追随する可能性もある。ただ、総裁、副総裁、4名の理事、18ヶ国のユーロ圏各国中銀総裁の総勢24名で行われる金融政策決定での影響力はそれほど大きくないと考えてよいだろう。なお、銀行監督を専門とする同氏の理事就任で、理事会内での役割分担が見直される可能性がある。現在の主な役割分担は、ドラギ総裁が総括・コミュニケーション・国際/EU関係など、コンスタンシオ副総裁が金融安定・決済システム・銀行同盟など、クレー理事が市場オペ・調査など、メルシュ理事が紙幣・情報システム・リスク管理など、プラート理事がマクロ経済・統計などで、

アスムセン理事が担っていた国際/EU関係はひとまずドラギ総裁が引き継いだ。

理事交代による金融政策への直接的な影響は限定的とみられるが、これまでドイツ政府とのパイプ役を果たしてきたアスムセン前理事が抜けた穴を埋めるのは容易でない。ドイツ財務省出身で社会民主党員でもあるアスムセン氏は、ECB理事に就任する以前はドイツの財務次官を務め、ドイツの政財界に太いパイプを持っていた。理事就任当初は、ECBの国債購入への反発から任期途中で退任したタカ派のシュタルク前理事の後任と言うこともあり、ドイツ政府の代弁者ではないかとの見方もあった。だが、債務危機対応を巡ってECBとドイツ政府との対立が表面化した際には、ECBの立場を擁護し、ドイツ政府や国民を説得する側に回ってきた。OMTの合憲性を巡るドイツ憲法裁判所の公聴会でも、アスムセン理事がECBの立場を丁寧に説明したことは記憶に新しい。バイトマン総裁はもっぱらドイツ国民の意見を代弁する側。新たに理事に就任するラウテンシュレーガー氏は銀行監督の専門家とあって、金融政策の分野でドイツ政府とのパイプ役を担うことが出来るかは未知数だ。今後はドラギ総裁自らがドイツ国民の説得に奔走し、批判の矢面に立つ場面が増える可能性がある。

以上